

越中福岡の菅笠製作技術保存会通信

2012年10月発行

No. 12

総会



▲今年の総会は、会員ら47人が参加しました。

五月三十日(水)、とやま・ふくおか家族旅行村(ロツジ山ぼうし)にて、平成二十四年度「越中福岡の菅笠製作技術保存会総会及び懇親会」が行われました。平成二十二年十月に、三十一名の会員で立ち上げた保存会は、その後、国の重要無形民俗文化財の指定を受け、今日では個人・法人を含む二百五十名の会員の皆さまから支援を受けております。

今年度、保存会ではスゲ田の面積を把握するたための実態調査や、後継者育成教室のため、笠縫い教室・笠骨教室を行いました。笠製作技術の保全、検討を行いました。



▲被害に応じて農薬を選びます。

スゲ栽培



▲田畑の荒廃が進む中、スゲ栽培に励む会員

五月二十一日(月)、「スゲ草の害虫被害で悩んでいる」と、会員から相談がありました。保存会事務局では、城山理事・中島理事と一緒に、現場の「スゲ田へ出かけました。この会員からは、昨年「メ」イ虫被害にあい、一枚のスゲ田を廃田した」と報告がありました。

大阪市の深江地区で作られる伊勢神宮(伊勢市)奉納用の菅笠に福岡産のスゲが使われると知ったことがきっかけに、県神道青年会は、七月十九日(木)舞谷でスゲの刈り取りと天日干し作業を体験しました。

神道青年会



▲20年に一度の伊勢神宮式年遷宮に菅御笠が奉納されている。



▲「品質が良い」と評判。福岡産スゲの注文が深江地区からありました。

笠骨製作教室



▲富士笠の笠骨(上)と熱心な参加者たち(下)

六月二十四日(日)、福岡庁舎において、「第一回笠骨製作教室」が行われました。笠骨製作の技術継承と後継者育成を目的に、二年度から取り組み、今回は八名の参加がありました。当日は、保存会員で笠骨製作技術者の指導のもと、製作が進められました。使用するのは、青竹の長さ約三〇cm、短竹の長さ約一〇cm、九本の竹を火であぶつたり、穴を開けたりして、悪戦苦闘(富士山に似た型)笠骨づくりの体験をしました。参加者は、今後にも真剣に技術を減らすため、今後は管笠伝承技術を守りたいと話しました。

琴川のすげ笠

退した「琴川のすげ笠」を、なすげ笠と復活させよう、六月十日、秋田県男鹿市の無形文化財「琴川のすげ笠」の伝承青年会の四名の青年が、福岡で、スゲ栽培・笠骨づくりの研修体験をしました。北前船で秋田に伝わったという管笠は、福岡の管笠とは似ていますが、笠の外輪をサクラの樹皮で補強するなどの工夫が深い秋田ならではの工芸品です。



七月の豪雨災害

七月二十一日午前三時頃より大雨が降り、記録的な大雨が降りました。崩落など、西山のゲ田スゲ栽培の等崩落など、西山のゲ田スゲ栽培

ぽかぽかインフォメーション

8月30日までの加入会員数
156人

8月30日までの寄付(1万円以上)
4件

- いなほ化工株式会社様
- ハリタ金属株式会社様
- 福岡総合行政センター管理職会様
- 高田 哲様

ありがとうございました。
心より感謝申し上げます。



まなびっこ集まれ

昨年同様、二上まなび交流館で、「まなびっこフェスティバル」が開催されます。親子で管笠づくりを体験してみませんか。

- ▶とき 10月6日(土) 10時~15時
- ▶ところ 二上まなび交流館
- ▶内容 豆笠、コースター作り体験
- ▶教材費 豆笠100円、コースター50円ほか



培農家数軒に被害が出ました。刈り取り後のスゲ束が濡れたり、土砂が流れたり、田に流れ込んだりしました。

